

社会全体および各企業において、DX（デジタルトランスフォーメーション）が進むにつれて、事業部門の役割の重要性が高まっている。DX推進の主役はどの部門か？を考えると、

事業部門の役割を考えると、DXの捉え方がポイントになる。DXを単なるIT導入と捉えているのであれば、それは誤りであり、それは誤りである。従来のIT導入ではシステム

の目的は事業改革であり、データやデジタル技術は手段だということだ。企業のためにデータやデジタル技術を活用することがDXである。



片平 智之（かたひら・ともゆき） コンサルティング事業本部 業務ITコンサルティング部シニアマネージャー

事業部門の役割とは

これからのDX(2)

DX推進の主役は事業部門であると考えており、具体的にはビジネスにおいて生産から消費までの流れに関わる主たる部門を指す。本稿では、DXにおける事業部門の果たすべき役割について解説する。

DXは「経営改革・事業改革」として捉えるべきである。つまりは、事業そのものを革新することであり、顧客提供価値の交換や事業構造（コスト構造やサ

場合もあり、この場合、システム部門が導入の中心的役割を果たしてきた。外部環境変化により、戦略構築や事業改革を進める上ではデータ活用やデジタル技術

が不可欠になってきている。DXは事業改革実現を目指す。DXは事業改革実現を目指す。DXは事業改革実現を目指す。DXは事業改革実現を目指す。

そして重要なことは、部門横断での活動推進である。事業は一つの機能組織で成立することはほとんどない。例えば、製造業で

DXの推進は、事業部門が主役であることは述べた通りであるが、事業部門だけでなく、システム部門にもサポートしてもらうことが肝要であり、例えばデジタル技術の評価・選定・導入等の点においてである。次稿では、システム部門の役割やポイントについて解説する。

（毎週木曜日に掲載）

